

5.2.6 AGC 管

(1) 先頭値型 AGC

使用時期	AGC 検波管	Tube-番号
1962(S37)～1966(S41)	6AW8A(T) (P-G 接続)	-211

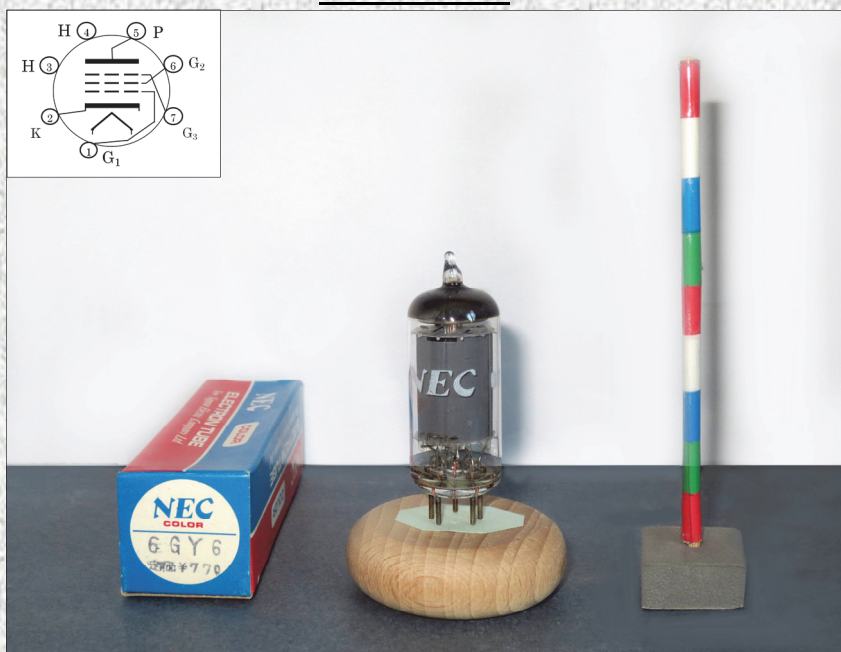
(2) キード型AGC

使用時期	AGC 検波管	Tube-番号	使用時期	AGC 検波管	Tube-番号
1960(S35) ～1963(S38)	6BX6	-111	1965(S40) ～1970(S45)	5GH8(P)	-229
1960(S35)	6U8(T)	-142	1966(S41)	6GY6	-475
1960(S35) ～1965(S40)	6AW8A(T)	-211	1966(S41)	6JX8(T)	-476
1963(S38)	6DX8(T)	-465	1966(S41) ～1970(S45)	4AU6	-228
1963(S38) ～1969(S44)	6AU6	-56	1967(S42) ～1969(S44)	6HZ6	-477
1963(S38) ～1965(S40)	5AN8(T) (P-K 間)	-195	1967(S42) ～1970(S45)	9GH8A(P)	-478
1963(S38)	6AW8A(P)	-211	1967(S42) ～1969(S44)	6HZ6,6GY6	-477, -475
1964(S39)	3DT6	-407	1967(S42)	6GY6,6HZ6	-475, -477
1964(S39) ～1967(S42)	6AU6A	-402	1967(S42) ～1969(S44)	5GH8A(P)	-230
1964(S39)	6AB8(P)	-245	1967(S42) ～1970(S45)	6GH8A(P)	-239
1964(S39) ～1966(S41)	5EA8(P)	-174	1968(S43)	8KA8(P)	-479
1964(S39) ～1967(S42)	15DQ8(T)	-220	1968(S43)	5GH8(T)	-229
1964(S39) ～1970(S45)	6DT6	-410	1969(S44) ～1970(S45)	6JV8(T)	-204
1964(S39) ～1965(S40)	8A8(P)	-231	1969(S44) ～1970(S45)	10KR8(T)	-469
1965(S40) ～1970(S45)	6KA8(P)	-480	1969(S44) ～1970(S45)	5GH8A(T)	-230

AGC ダイオード

使用時期	AGC 検波	Diode-番号
1964(S39)～1969(S44)	1N60	D-01

Tube- 475:

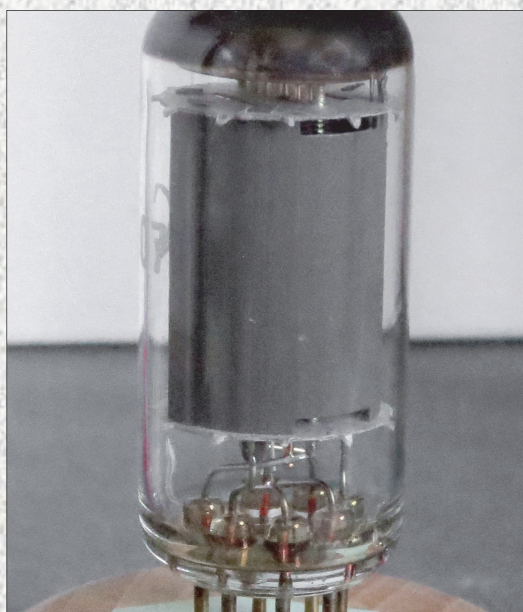
6GY6

サンプル・メーカー	新日本電気(NEC)	外形番号	mT18-2
使用時期	1964(S39)～1970(S45)	初期使用機種	新日本電気 (19-CT1)
使用回路	下記(CTV)	Ef [V] × If [mA]	6.3×450

CTV：XZ軸復調(P)×2、AGC検波、ノイズキャンセラ

特徴：振幅制限・周波数弁別5極管、G₁及びG₃でプレート電流を制御できる真空管で色復調回路に使用される。プレート損失=1.7W,Gm=3,700 μ mho(G₁-P間),750 μ mho(G₃-P間),ウォームアップタイム=11秒

経緯：(RCA TUBE HANDBOOK,HB-3,1961)

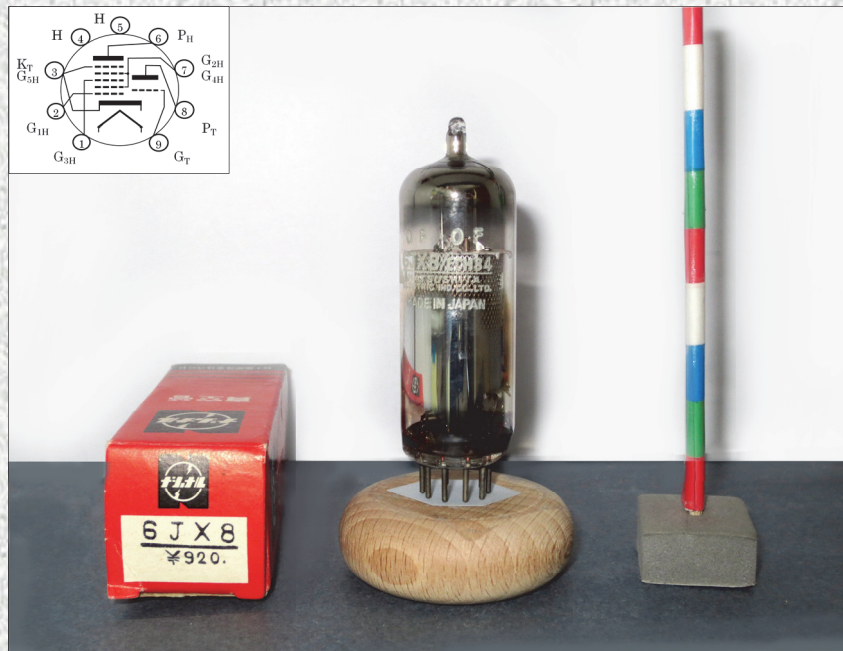


一部拡大



通電状態

Tube- 476:

6JX8(ECH84)

サンプル・メーカー	松下電器産業 (National)	外形番号	mT21-3
使用時期	1964(S39)~1970(S45)	初期使用機種	松下電器産業(TK-62D)
使用回路	下記(CTV)	Ef [V] × If [mA]	6.3×300

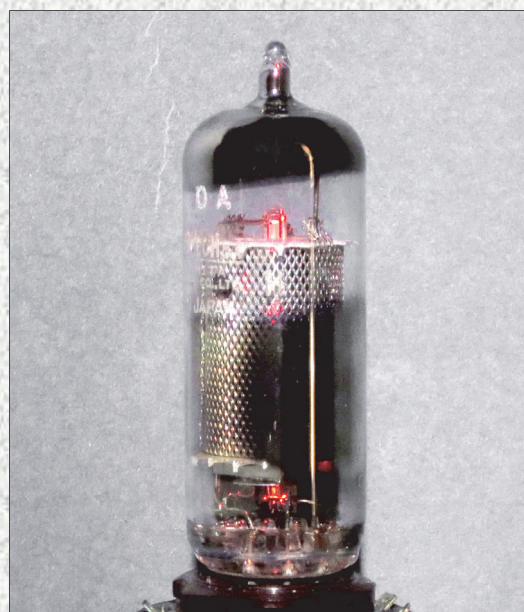
CTV：同期分離(P)、AGCクランプ(T、P-G接続)、同期増幅(T)、AFT検波(T)、ノイズキャンセラ(T)

特徴：同期分離・増幅用7極3極管、(3極部)プレート損失=1.3W, $G_m=3,700 \mu \text{ mho}$, $\mu=50$,
(7極部)プレート損失=1.7W, $G_m=2,200 \mu \text{ mho}$

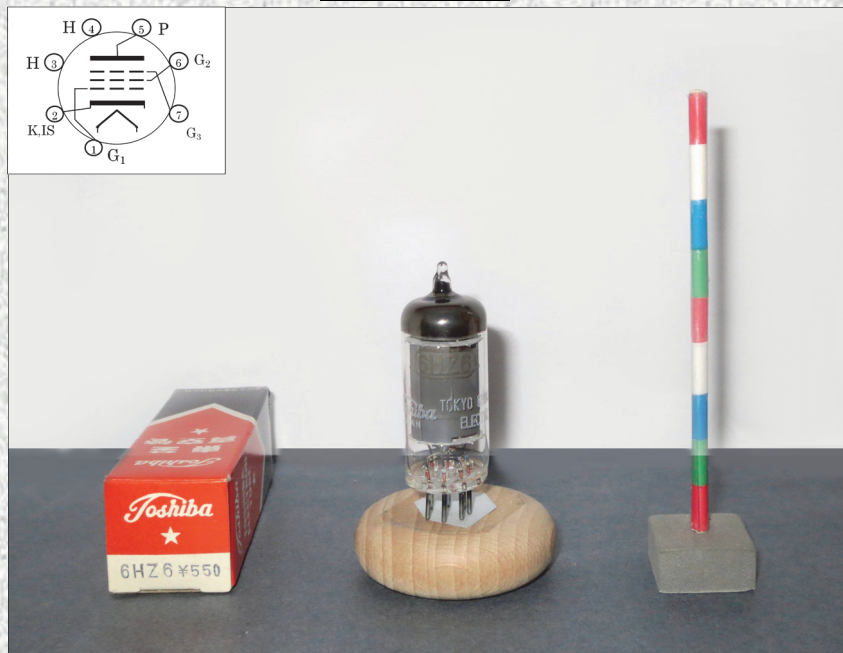
経緯：オリジナルケースは**6LX8**の印刷であるが、真空管には両名が併記されている。日本では**ECH84**名の真空管は使用されていない。(ナショナル真空管ハンドブック,1966)



一部拡大



通電状態

*Tube- 477:**6HZ6*

サンプル・メーカー	東京芝浦電気 (Toshiba)	外形番号	mT18-2
使用時期	1965(S40)～1969(S44)	初期使用機種	三洋電機(16-CT60)
使用回路	下記(CTV)	E_f [V] × I_f [mA]	6.3×450

CTV：FM検波、3軸復調(P)×3、XZ復調(P)×2、AGC検波、ノイズキャンセラ

特徴：FM検波用5極管、**5HZ6**同等

経緯：（東芝電子管ハンドブック,1969）



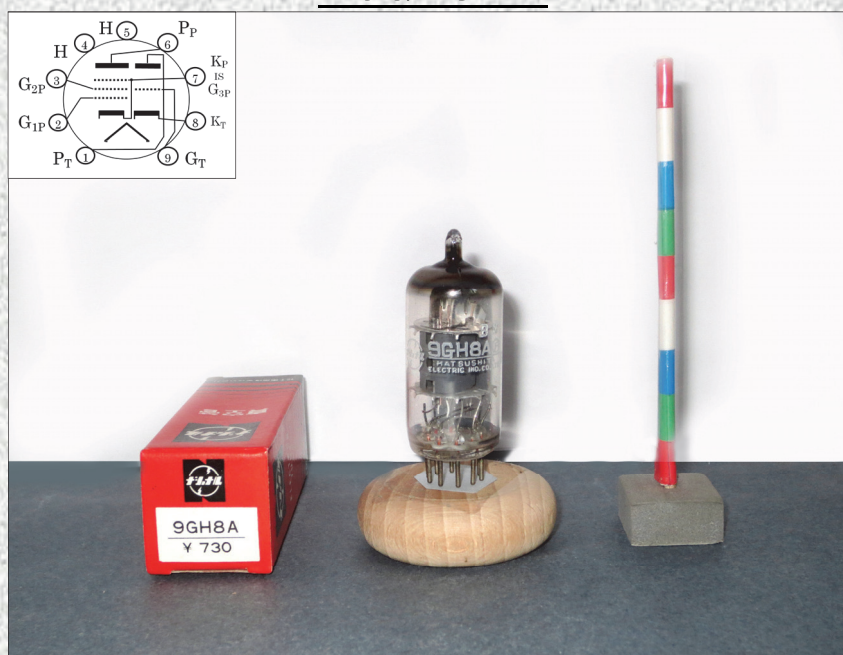
一部拡大



通電状態

Tube- 478:

9GH8A

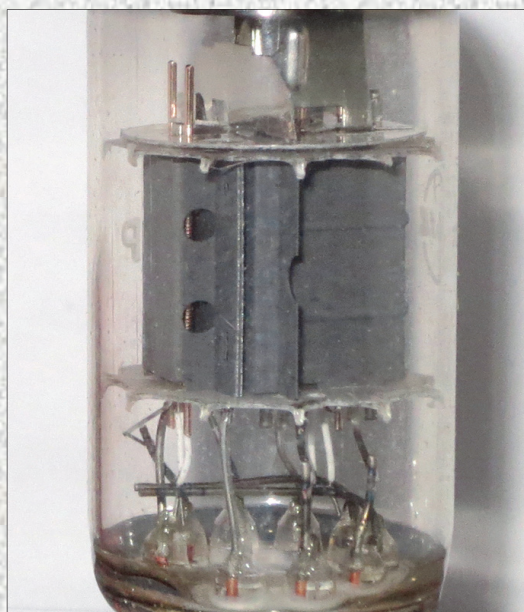


サンプル・メーカー	松下電器産業 (National)	外形番号	mT21-2
使用時期	1966(S41)～1970(S45)	初期使用機種	松下電器産業 (TK-900D)
使用回路	下記(CTV)	Ef [V] × If [mA]	9.5×300

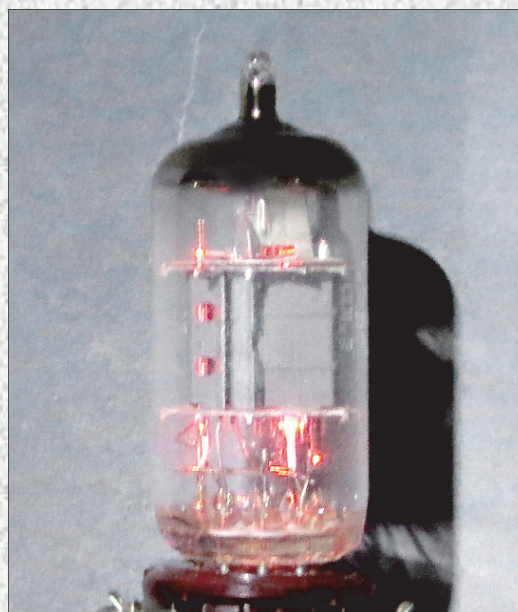
CTV：帯域増幅(P)、3.58MHz発振(P)、リアクタンス制御(T)、ノイズキャンセラ(T)、AGC増幅(T)、AFT検波(T)、垂直発振(T)、バースト増幅(T)、キラー増幅(T)、同期増幅(T)、AGC検波、XZ復調(P)×2、色差増幅(T)×3、ブランカー(T)

特徴：5GH8、6GH8A同等、ウォームアップタイム=規定無

経緯：（東芝電子管ハンドブック,1969）

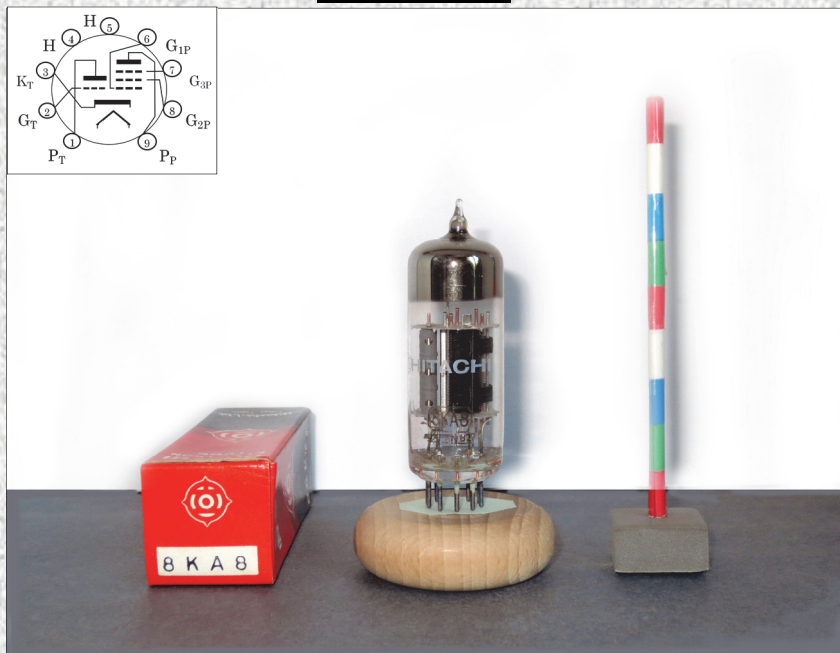


一部拡大



通電状態

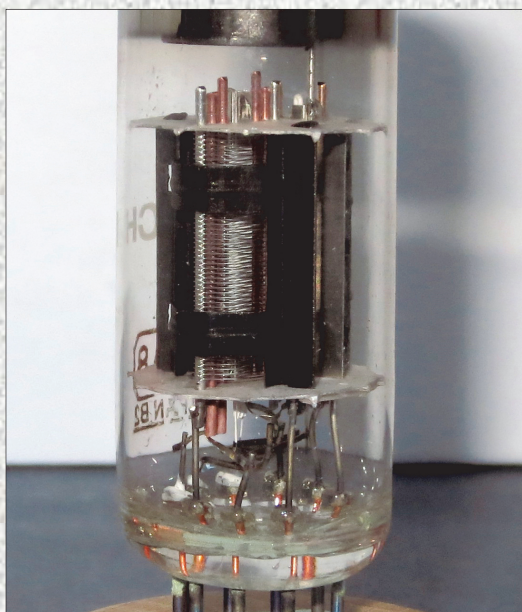
Tube- 479:

8KA8

サンプル・メーカー	日立製作所 (HITACHI)	外形番号	mT21-3
使用時期	1968(S43)	初期使用機種	日本ビクター (C-357)
使用回路	CTV:同期分離(T),AGC検波(P)	Ef [V] × If [mA]	8.4×450

特徴：同期分離・AGC用3極5極管、(3極部) プレート損失=1.1W, $G_m=4,000 \mu \text{ mho}$, $\mu=70$,
 (5極部) プレート損失=2.0W, $G_m=4,400 \mu \text{ mho}$, ウォームアップタイム=11秒

経緯：6KA8同等、(RCA Electric Compornents DATA,1967)

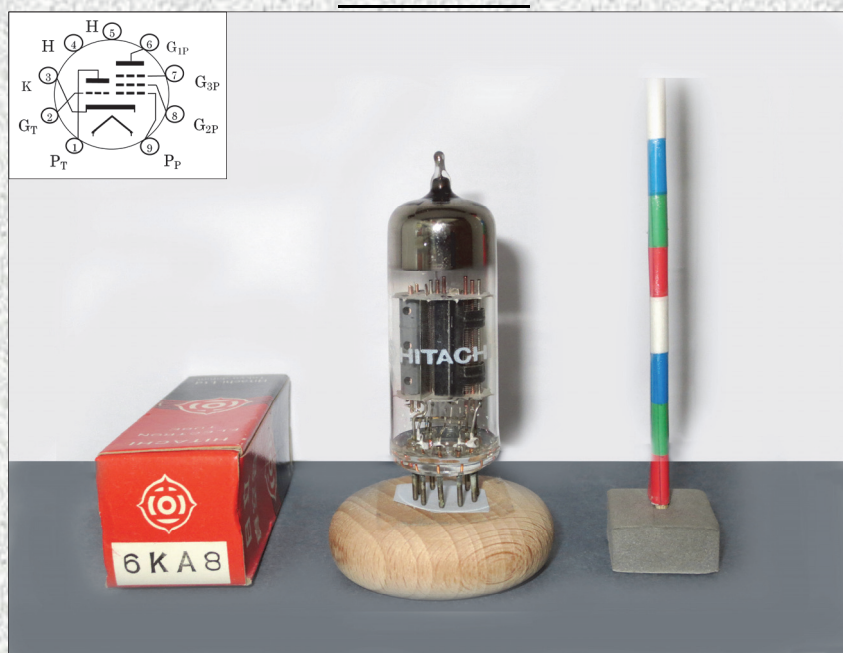


一部拡大



通電状態

Tube- 480:

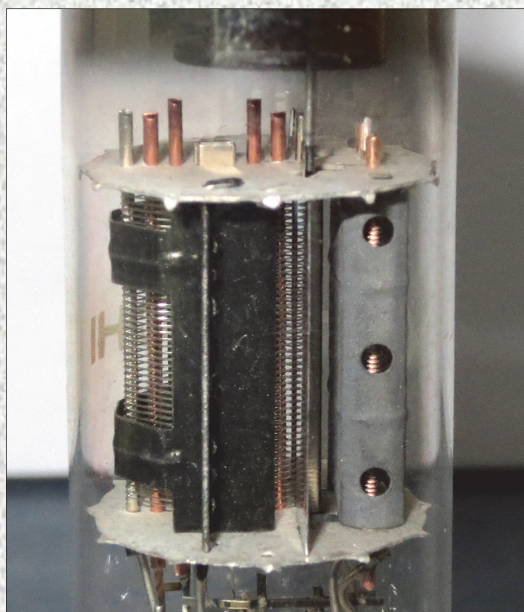
6KA8

サンプル・メーカー	日立製作所 (Hitachi)	外形番号	mT21-3
使用時期	1965(S40)～1970(S45)	初期使用機種	三洋電機 (16-CT60)
使用回路	下記(CTV)	Ef [V] × If [mA]	6.3×600

CTV：AGC検波(P)、AGC増幅(T)、同期分離(T)、ノイズキャンセラ(P)

特徴：同期分離・AGC用3極5極管、**8KA8**同等、ウォームアップタイム=11秒

経緯：(RCA TUBE HANDBOOK,HB-3,1962)、(東芝電子管ハンドブック,1969)



一部拡大



通電状態